

# 平成22年度事業報告書 (一般会計事業報告書)

## 1 会議

### (1) 理事会 3回開催

開催日 平成22年5月27日(木) 法曹会館

開催日 平成22年6月28日(月) 法曹会館

開催日 平成23年3月31日(木) 法曹会館

### (2) 評議員会 2回開催

開催日 平成22年6月28日(月) 法曹会館

開催日 平成23年3月31日(木) 法曹会館

### (3) 最初の評議員選定委員会 1回開催

開催日 平成22年12月21日(火) 法曹会館

### (4) 選考委員会 1回開催

開催日 平成23年3月7日(月) 法曹会館

## 2 助成事業……………75,503千円

(1) 調査研究助成(4件)……………3,500千円

(2) 研究集会助成(3件)……………900千円

(3) 特定調査研究等助成(1件)……………23,750千円

(4) 特定研究集会等助成(17件)……………45,265千円

(5) その他……………88千円

## 3 自主事業……………8,783千円

(1) 財団主導型研究事業……………616千円

(2) 財団主導型集会事業……………6,185千円

(3) 広報活動……………1,982千円

## 4 管理費……………21,321千円

## (特別会計事業報告書)

### 1 司法精神医療等人材養成研修委託事業

33,888千円

#### (1) 指定(入院・通院)医療機関従事者机上研修会開催実績

研修期日	会場名	受講者数(名)		
		指定入院 医療機関	指定通院 医療機関	合計
平成22年 9月3日(金)～5日(日)	ベルサール神田	72	91	163
11月16日(火)～18日(木)	ベルサール神田	110	91	201
平成23年 1月14日(金)～16日(日)	大阪天満研修センター	83	97	180
合 計		265	279	544

#### (2) 指定入院医療機関従事者病棟研修会開催実績

研修期日	会場名	受講者数 (名)
平成22年4月2日(金)～19日(月) (12日間)	鳥取医療センター	27
5月28日(金)～30日(日) (3日間)	長野県立駒ヶ根病院	17
6月14日(月)～25日(金) (10日間)	鹿児島県立始良病院	35
6月21日(月)～7月9日(金) (7日間)	松籟荘病院	57
6月23日(水)～7月9日(金) (13日間)	山梨県立北病院	9
12月3日(金)～24日(金) (15日間)	山口県立こころの医療センター	38
平成23年1月17日(月)～3月2日(水) (12日間)	茨城県立友部病院	37
合 計		220

## 2 自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究

45,000千円

わが国では自殺者が毎年3万人を超えた状況が続いており、自殺対策は極めて深刻な課題である。一方、厚生労働省の主導により「自殺対策のための戦略研究」(平成17～21年度)が実施され、「エビデンスに立脚した自殺対策」に関する取り組みが大きく進展した。具体的には、2つの大型多施設共同研究「複合的自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する地域介入研究(NOCOMIT-J)」、「自殺企図の再発防止に対する複合的ケース・マネジメントの効果:多施設共同による無作為化比較研究(ACTION-J)」が、それぞれの研究プロトコルに定めた通りに進捗した。

本研究課題では、この「自殺対策のための戦略研究」の成果に基づき、NOCOMIT-J及びACTION-Jを完遂し、自殺対策に関わる政策立案に資するエビデンスを構築している。

NOCOMIT-Jは、日本でまだ数少ない行政サービスの事業化に直結する複数地域を対象とした比較介入研究であり、政策立案に直結する研究成果が期待される。一方、ACTION-Jは、自殺未遂者に対する再企図防止の実効性の高い介入方法を得ることができる大型多施設共同無作為化比較試験であり、政策立案に直結する研究成果が期待される。いずれの研究も、世界に類をみない大型の国家プロジェクト研究として国際的にも高い注目を浴びている。当財団の役割は国内外において高く評価されている。

### **複合的自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する地域介入研究 NOCOMIT-J、研究リーダー:大野 裕(慶応義塾大学教授)**

(目的)本研究の主たる目的は自殺死亡率が長年にわたって高率な地域において、1次から3次までのさまざまな自殺予防対策を組み合わせた新しい複合的自殺予防対策プログラム(以下自殺対策プログラムと略)を介入地区で実施し、通常の自殺予防対策を行う対照地区と比較して、自殺企図(自殺死亡及び自殺未遂)の発生に効果があるかどうかを検討することである。本目的を実施する地域を複合介入グループと称する。

(進捗状況)人口規模212万人の地域介入を終了し、最終解析に向けデータ固定中である。

### **自殺企図の再発防止に対する複合的ケース・マネジメントの効果:多施設共同による無作為化比較研究 ACTION-J、研究リーダー:平安良雄(横浜市立大学教授)**

(目的)救急医療施設に搬送され入院となった自殺未遂者に対して、試験介入としてケース・マネジメントを行い、通常介入と比較して自殺企図再発の防止に効果を有するかを検証する。

(進捗状況)全国で914例の症例登録を終了し、平成23年6月まで追跡中である。

1. 若手研究者育成活用事業報告 リサーチ・レジデント 合計 12名

事業成果:

各リサーチ・レジデントは、より良い研究指導者と研究環境のもと、それぞれの研究に専心でき、その研究意欲が充実され、その研究成果が大いに期待されると共に、今後における障害者対策総合研究の推進に寄与するところが大きくなっている。

2. 研究成果等普及啓発事業報告 研究者向け 2件 一般者向け 1件

事業の成果:

発表会は研究者向けを財団主催で開催し、各研究分野でそれぞれの専門的な研究課題の発表を行い多数の研究者および関係者の参加を得た。

また、一般者向け発表会は募集により選ばれた主任研究者が発表会を開催し、一般者にも判りやすいテーマで発表を行い多数の参加を得た。

これら普及啓発を行ったことにより厚生労働科学研究の一層の推進に資することができ、厚生労働科学研究を含めた科学技術に対する国民の理解の推進を喚起することに効果は大なるものがあった。